

## 活動の楽しさは「新しい出会い」

町田市の最も西に位置する相原地区。そこで、地域における人との出会いを楽しみ、退職後も生き生きと活動している方がいる。

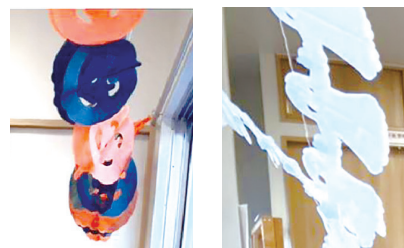
松日樂義隆さんは、自治体職員として地域づくりに取り組む中で、「退職後は地域をお願いしてきたことの責任を取って(笑)、自分がやろうと思いました。」と楽しそうに語る。地区協議会での活動は、退職後に大戸町内会会長として地域に関

わる中で、相原地区協議会の代表から事務局長を頼まれたことがきっかけだった。

在職中から新たな出会いを楽しみながら仕事をしてきたという松日樂さん。「人事異動で新しい部署に異動したとき、新しい人、新しい仕事に出会うことができました。その出会いが楽しいので、地域のイベントにはできるだけ顔を出すようにしています。そして何より人と話をするのも楽しいです。」



ハロウィンポッチャを通した交流イベント。



ハロウィンにちなみ、会場にはカボチャ(左)やおバケ(右)の飾りつけも。

2021年10月に開催したイベント「ハロウィンポッチャ」には、法政大学の学生、町内会、老人会、相原小学校のPTA、NPO、高齢者支援センターなど、多くの団体が実行委員会としてイベントを企画し、子どもからお年寄りまで多くの人々が参加した。地区協議会を通して各団体の顔が繋がっていたことにより、スムーズな開催に至ったという。

「住みたいと思う街は、単にインフラが整備された場所ではなく、心の通った温かい街だと思います。相原がみんなの手本になる街になったら良いですね。」と笑う。

活動を続ける秘訣は、「地域の人との新しい出会いに、ちょっとした幸せを感じながら、無理のない範囲で行うこと。無理をしないからこそ、楽しく続けられます。」そこには豊かな第2の人生を歩む姿があった。

## いつまでも続く居場所に

町田駅の西側に位置し、豊かな自然の入口である忠生地区。そこに町田市立室内プールがある。その指定管理者である株式会社協栄の清水雄二さんは、室内プールが地域の居場所となるよう奔走している。

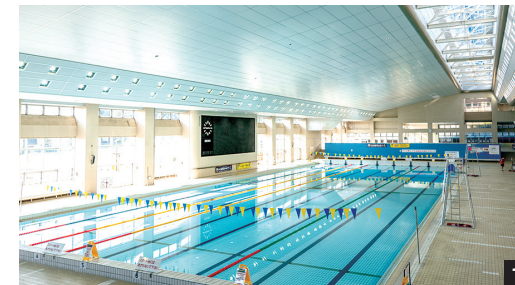
流行りのトレーニング室も備えており、4月には新たに併設される温浴施設がオープン予定と、今後多くの利用者が見込めそうだが、

「利用者はリピーターがほとんど。普段利用している人以外にも使ってもらえるように。いつまでも選ばれるためには、単なる管理運営だけでなく、地域とのコミュニケーションが不可欠です。」と清水さん。

余った食材を集め、子ども食堂に寄付する「フードドライブ活動」や、水難事故防止活動の「ういてまで」を実施し、2019年の大規模改

修の際には、使えないプールに代わり忠生市民センターで運動教室を開催するなど、室内プールの外でも地域とともに様々な取り組みを行ってきた。そして今では「プール運営協議会」が設立され、室内プールの今後のあり方を地域みんなで作る場ができている。

そのなかである思いが生まれた。「子どもの居場所をつくりたい。放



町田市立室内プールの施設。  
■50mプール ■サウナ ■温浴施設 ■多目的室

課後子ども教室『まちとも』のように、両親が家にいない時間、子どもの居場所としてプールを活用したい。」

大学などの学生ボランティアに協力を頼み、地域の方々にも相談するなど、少しずつ着実に賛同者が増えていった。そして、忠生子どもフェスティバルの運営委員となり、子どもの居場所づくりとしての一歩目を踏み出すところまで来た。

そんな矢先、新型コロナウイルスの第6波によってイベントが中止に。勢いをそがれてしまったが、清水さんは静かに燃えている。自身も四児の父で、「次世代に少しでも良い環境を残したいので、子どもの居場所やフードドライブなどが市内に定着するまで取り組みたいです。」と語る。清水さんの熱い思いが今日も温浴施設を温めている。



フードバンクで集まった食べ物。2021年度は約500kgが寄付された。

